建築デザイン研究室

Architectural Design Lab.

福原 和則

FUKUHARA, Kazunori / Professor

あてまげ道の先に。 ―伝統的な街路形態を活用したまちづくり―

Beyond "Atemagemichi" : Creating new values for traditional streets

敷地は私の地元である富田林寺内町。

この寺内町は、伝統的建造物群保存地区で多くの町屋が現在も残っている。しかし、来訪者が少なく知名度が低い。まちの歴史を知る人も少ない。観光地化を目指すのではなく、歴史を知ってもらい後世に引き継ぐきっかけをつくりたい。

そこで、古建築を保存再生する「文化継承型リノベーション」を提案する。

富田林寺内町の都市構造「あてまげ」の道に注目する。あてまげ道とは、直交する二つの道路をわずかにずらし、侵入してきた外敵が、遠方をまっすぐに見通せない防御の手段。このような道の構成を利用し、あてまげの先をアイストップにして来訪者を誘う。

また、伝統建築の空き地や空き家などにギャラリーやまちの憩い場となるようなプログラムを挿入し、それらをつないでネットワークを構築する。決して観光地化を目指さないこのまちのあり方を持続させながら、歴史を知るきっかけを与える建築を目指す。

浅野 愛莉
ASANO, Airi

水の星に生まれた私たち ―酒蔵園舎のマチのモノガタリ―

Our water planet : Story of Sake brewery town

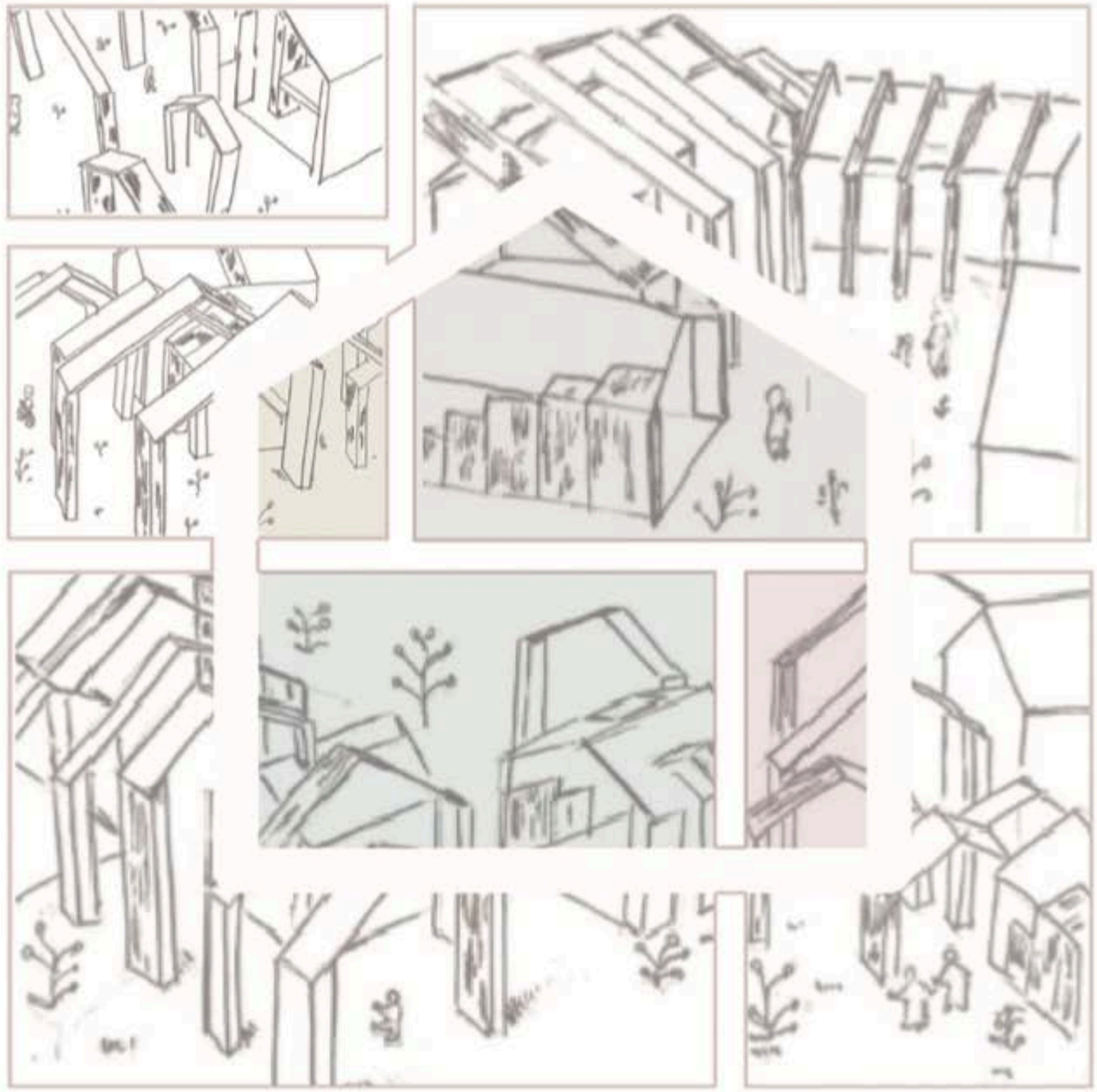
私たちは水の星に生まれた
水は私たちにココロという恵みをもたらした

モノガタリの舞台は
「日本一の酒どころ」である灘五郷の一つ
兵庫県　西宮郷
水を磨き、おサケのココロを大切にしてきたマチ

ココロを大切にするおサケのマチのモノガタリは
ヒトのココロをもつないでいく

こども　親　働く人
幼き頃の記憶　たわいもない会話
たくさんのココロ　誰かの大切な思い
きっとマチのココロとなり受け継がれていく

私たちはこれからもこのマチで生きていく



古閑 桃花
KOGA, Momoka

水の星に生まれた私たち ―酒蔵園舎のマチのモノガタリ―

Our water planet : Story of Sake brewery town

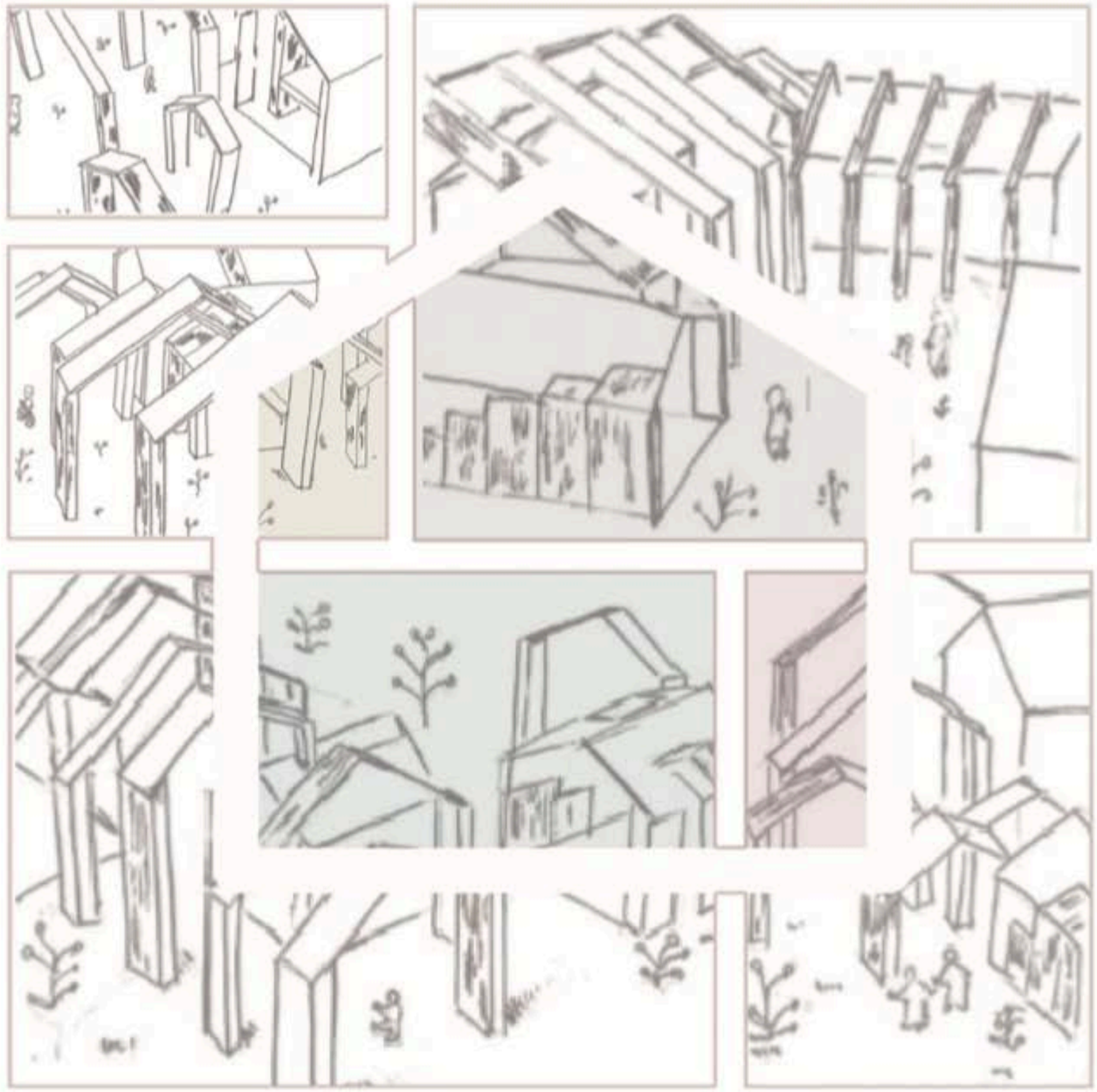
私たちは水の星に生まれた
水は私たちにココロという恵みをもたらした

モノガタリの舞台は
「日本一の酒どころ」である灘五郷の一つ
兵庫県　西宮郷
水を磨き、おサケのココロを大切にしてきたマチ

ココロを大切にするおサケのマチのモノガタリは
ヒトのココロをもつないでいく

こども　親　働く人
幼き頃の記憶　たわいもない会話
たくさんのココロ　誰かの大切な思い
きっとマチのココロとなり受け継がれていく

私たちはこれからもこのマチで生きていく



古閑 桃花
KOGA, Momoka

さぬき お遍路明日への心路 ―世代を超える、美しき廻国文化の継承空間―

***Sanuki Ohenro* heartful path for tomorrow : Space for inheriting beautiful religious journey culture beyond generations**

お遍路は古から四国の日常であるが、時代が進むにつれてそのスタイルを変化させてきている。

現代では簡略化された遍路が一般化する中で、本当の価値は歩くこととその道中での経験にあると私は考える。この道は心の軌跡で、人とともに成長していく。

お遍路を体現する中で揺れ動く、気持ちの変化を幻想空間としてデザインした。

場所は瀬戸内海に屋根のように浮かんでいる屋島。古代から多くの歴史舞台になり、香川県高松市のシンボルとして観光客、お遍路さん、登山者に愛されてきた。

屋島の木の香り、すれ違いざまに交わした挨拶や世間話、登りきって見える瀬戸内の風景、全ては人々の心象風景として記憶されるかもしれない。

この空間を歩く人によって、遍路は日々更新されていくだろう。あなたはあなただけの道を見つけ出し、その道が明日に続くことを願って。

坂本 茉優

SAKAMOTO, Mayu

あの日、陸奥の驛舎で…。 ―鉄道が繋ぐ、記憶を創る場所―

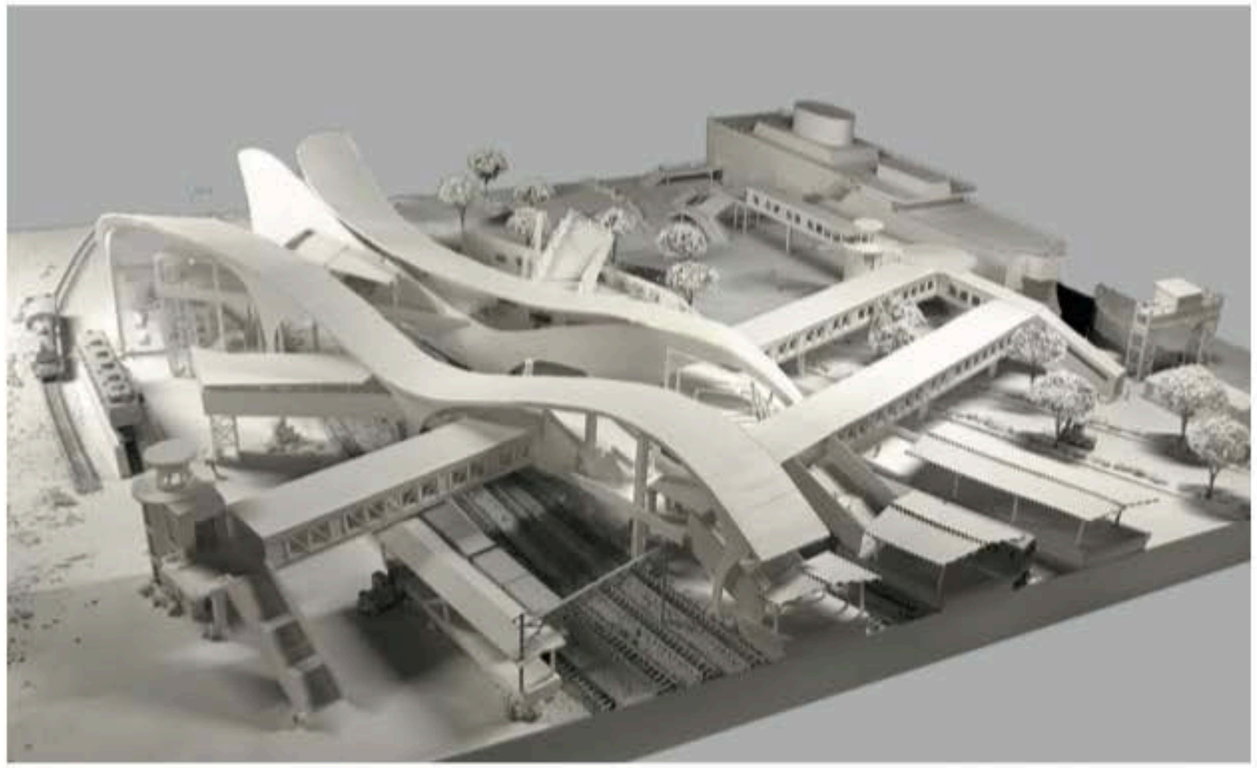
That day, at the station of Michinoku... : Place for creating memories connectied by railways

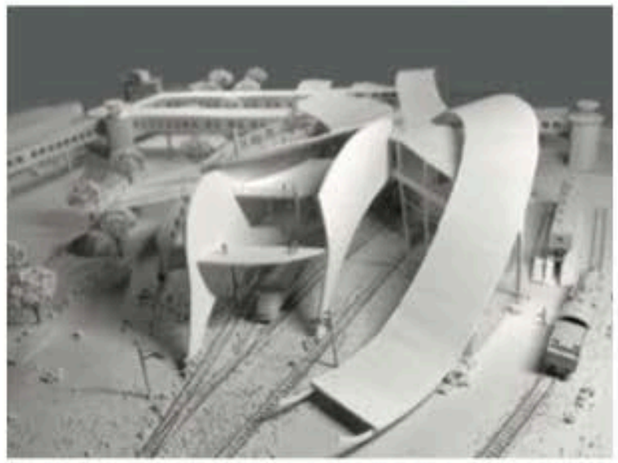
ー出逢いがあれば、別れがある
光り輝き、色褪せない記憶
この地…この場所
線路が刻(とき)を越えて繋いでいく
寂しさを懐かしむ様に
私は、もう少し旅を続けます。

日本国民の生活、文化、経済、社会、技術が刻まれた地、青森。長い苦難を乗り越えた歴史と共存する新しい風景とは…。

青森駅、線路跡、可動橋、青函連絡船八甲田丸、そして私達の記憶。普段はわかりにくくなっていた街の価値を、土地に刻まれた「記憶」の共有を通じて地域社会が理解し、実感する。私達は、モノから体験、体験から記憶へと価値を見いだすだろう。

「未来をつくること」が人類の使命。記憶が人類の最も強い力であり、未来をつくる原動力となるかもしれない。「陸」というそれぞれの空間を通して、日本国民の記憶を継承し、新たな記憶を創る場を提案する。

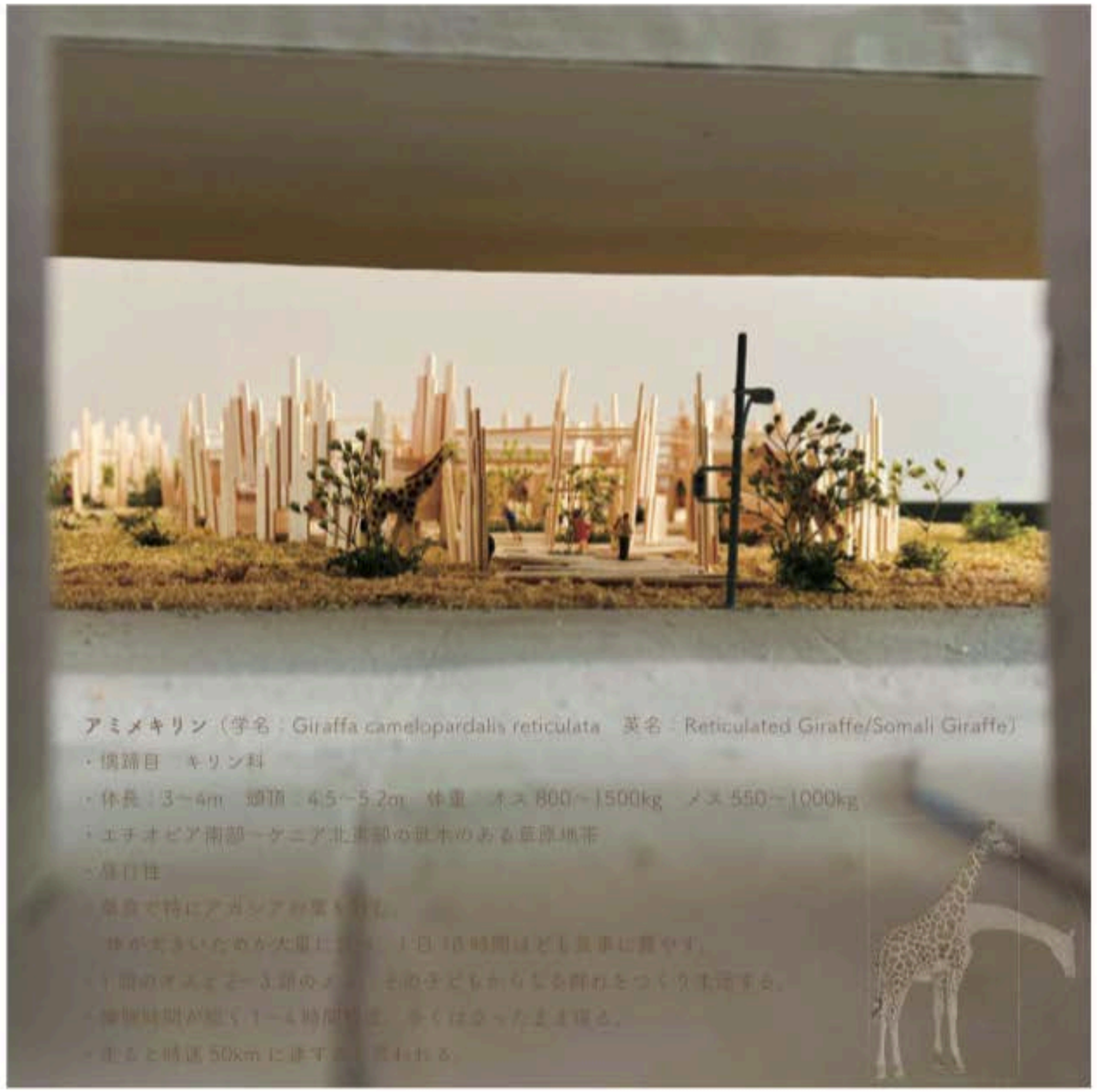




佐藤 桃佳
SATO, Momoka

今日、キリンと話をした。 ―となり町に棲むイキモノたちといつもの路地―

Today, I talked to a giraffe : Living things that inhabit in next town and usual alleys



ビルが建ち並ぶ大都会、天王寺。
そこに「イキモノミチ」が現れた。
フトした瞬間、生きもの達とどこかで目が合う。
その時、言葉は通じないが心は通じ合う。
気づけば、同じ場所で同じ時を過ごし、
同じ行為を共有している。
道を歩く日常は生きものとの仲を深めていく。
知らなかった絶滅や環境問題のこと、
目を背けてきた密猟や乱獲が行われる現実。
イキモノミチを通ることで、
「他人ごと」はいつの間にか「自分ごと」に。
そして、壊れかけたヒトと生きもの達との
関係を見直すキッカケを。
「今日、キリンと話をした。」
そんな等身大で、自然を考えることができる
「イキモノミチ」を提案します。

橋本 侑起
HASHIMOTO, Yuki

神とシロアリ ―死生を問う場―

God and termites : Place for questioning life and death

梅田は大阪のキタに位置しダイヤモンド地区を中心とした多くの超高層ビルが林立するオフィス街。
大阪駅地区では、JR大阪駅を始め地下鉄や私鉄の主要なターミナルが立 地し、西日本最大のターミナル駅を形成している。また、阪急百貨店などの大型の商業施設やホテル、オフィスビルなどの業 務・商業機能が集積している関西屈指の大都会である。
そんな経済主体であるこの地には追いやられた空間や忘れられた空間も多い。
火葬場の需要は減らないにも関わらず、都市の中で死を悼む場所が失われかけている気がする。
しかし単に死を悼む空間を都市に加えるだけでは都市のニーズに答えているだけに過ぎない
日常の中に当たり前にある場所として火葬場（死生を見つめる場）を
火葬場は身近な人が亡くなった時にだけ訪れる非現実的な場
そこに瞑想の地を加える（様々な祈りを皆行う）
火葬場を身近な場に置きかつ祈りの場が加わることで
今まで遠ざけていた場所を身近な存在にする
新たなコミュニティの場であり今の時代に皆が共有するべきことをこの地から発信する

橋本 遼平
HASHIMOTO, Ryohei

主人公になる…思い出の舞台で。 ―マイクロツーリズムの新しいカタチ―

Becoming main character on the stage full of memories : New form of microtourism

新型コロナウイルスで、遠くに旅行へ行くことができずにストレスを抱える日々。ただ平凡な毎日が過ぎ去っていくだけで、自分という存在を失っていないだろうか。

敷地はウイスキーのふるさと、京都・大山崎。良質な水と自然がそろう場所。そして、歴史的な思い出が戦国のときに刻まれた場所。

日常とは少し離れた自然の中で、ありのままの姿を感じ取り、新しい自分に出会える「舞台」を提案する。訪れる一人ひとりが「主人公」になり、紅緑の舞台、光影の舞台、水音の舞台など様々な舞台空間で自分を見つめたり、自分を表現してみてはどうだろうか。まるで自分を探すために旅をしているようで…。そして時間を忘れてしまったら、一睡の時を味わえる宿も利用できる。

先の見えないこれからの時代、自分を大切に生きる。私が創る人々の心に贈る空間。

濱名 真緒

HAMANA, Mao

今日、手に取る本は ―生まれ変わる本の居場所―

Reborn : New place for THE BOOKS

本を提供する場にはどのようなイメージがついているだろうか。近年、電子書籍の普及により全国の書店数が激減し、紙の本を購入して読んでいる人は昔に比べて少なくなってきている。また、本やインターネットのサービスを提供するネットカフェには、「ネットカフェ難民」という言葉があるように、本来のサービスとはかけ離れたネガティブなイメージがついてしまっている。

実際に紙の本を書店で選んで読むおもしろさ、普段読まない本を手に取ってみること。そういったポジティブで充実した体験ができる書店を計画する。無数の小部屋を作り、その中を通るようにして本を手に取って歩く。また、ネットカフェ特有の「個室の空間」を再編し、ふと足を止めて読書に没頭するのに最適な空間へと変えることで今までの在り方を一新し、新しい書店のイメージを作り出す。

松阪 彩乃
MATSUSAKA, Ayano

UMEDA SPORTS PARK ―コロナを乗り越え、新たな形へ―

"UMEDA SPORTS PARK": Place where new types of sports are born despite corona crisis

私たちは、新型コロナウイルスの影響を受け、人と会う・話すなど今まで当たり前だった日常がどれほど幸せだったか身を持って感じることができた。コロナ禍にデジタル技術は大きく進化し、コミュニティの形成の場がオンライン上に移り、交流する幅が広がり新たな出会いの場が確立された。しかし、スポーツを「する」、「見る」上で、様々な対策が取られ、一体感を感じず、孤独を感じてしまっている状況にある。そこで私は、人の気配、音など離れていても感じることができ、この空間全体に一体感を生み出し、賑わいのある場所を提案する。そしてウィズコロナ社会に発展したデジタル技術を応用し、新たなスポーツの楽しみ方を発信する。

松本 和樹

MATSUMOTO, Kazuki

賑わいの波働 ―京都市中央卸売市場 再編計画―

Feel waves of working and prosperity : Reorganization plan of Kyoto City Central Wholesale Market

全国初の中央卸売市場として誕生して以来、市民の食生活や世界に誇る「京の食文化」を支えてきた京都市中央卸売市場。

一方、主要建築物の老朽化が進む中、テクノロジー発達に伴う通販やネットマーケットの普及により取扱数量・金額の減少傾向が続いている。

市場敷地周辺は、京都水族館や京都鉄道博物館など豊かな地域資源に恵まれており、食の分野からこのエリアの賑わいをより生み出す可能性を宿している。

そこで、食育を理解・展開するための教育・研究・実践を行う新たな施設機能を市場に挿入し、再編する。

食には必ず人々のやり取りが生まれている。

近年、私達は食べ物がどのように育ち、加工されているのか知らず、食べ物を食べ物として得ている。

本来、市場は遥か昔から私たちの生活に深く根付いており、地域コミュニティ、人と人をつなげる核となりうるポテンシャルを秘めている。

市場を再編することで、私達が今忘れかけているつながりを再構築する。

三木 悠矢
MIKI, Yuya

keep smiling… ―自然とともに感性を磨く高齢者施設―

keep smiling… : Facility for elderly to refine their sensibilities in nature

『脳は死ぬまで進化する』

私は高齢者施設を制作する上で、介護の職場へ出向き、お年寄りに触れ合う中で身をもって体験した。都市は騒々しい。人は忙しい日常を送る中で、何か見失ってしまっているものがあるのではないだろうか？

対象敷地は、京都市北区に位置する鷹峯。この地は徳川家康の統治時代から芸術村として栄え、後世の日本の芸術文化に多大なる影響を与えた。

体が動かないから諦める高齢者。介護士は高齢者のカラダをサポートする。しかし、果たして高齢者のアタマまで、サポートできているだろうか？

そこで私は、地元の小学生から偶然訪れた観光客に至るまで、若者にとって、高齢者との交流のきっかけを建築によって提案する。

ここは、都市での普段の生活とは違った自然の中でゆっくりした時間の流れを体感しながら、感性を磨く場所。その流れは建築内に留まることなく、山の斜面や街の風景へと続いていく。

森 晴哉

MORI, Haruya